

気候変動に対応するため、既設ダムを最大限有効活用した治水機能の強化、
水力発電の促進等の方策について有識者からご意見を頂いて議論します
～「気候変動に対応したダムの機能強化のあり方に関する懇談会」の開催～

気候変動に伴う豪雨の頻発・激甚化等に対応するため、ダムの治水機能の強化を図るとともに、気候変動緩和策として、発電時にCO2を排出しない水力発電を促進するため、国土交通省では、「ハイブリッドダム」の取組を官民連携の下、推進していくこととしています。

この取組を含むダムに関する諸課題への対応に向けて、ダムの運用や構造、気象予測、水力発電などに関する知見を有する有識者からご意見、ご助言を頂くため、「気候変動に対応したダムの機能強化のあり方に関する懇談会」を設置し、第1回の懇談会を7月26日に開催することとなりましたので、お知らせします。

第1回の懇談会では、気候変動の影響など、ダムをとりまく現状と課題について、全般的なご意見をいただく予定です。

【会議について】

- 日時：令和5年7月26日（水）10：00～12：00
- 場所：中央合同庁舎3号館8階特別会議室 及び 各委員所属場所等
- 委員：別紙のとおり
- 議題：懇談会の設置
気候変動の影響、ハイブリッドダムの取組などのダムをとりまく現状と課題
議論の進め方について
※ハイブリッドダムのケーススタディについては、第2回以降の懇談会で、民間事業者からの意見聴取結果も紹介して、ご意見をいただく予定です
- その他：
 - 会議はWEB会議方式にて、公開で行います。
 - WEB上でのみ傍聴が可能です。回線容量の都合上、傍聴の接続は1人・1社（団体）につき1回線までとさせていただきます。
 - 議事の一部を非公開として進行する場合がございますが、あらかじめご了承ください。
 - WEB傍聴を希望される方は、7月25日（火）15：00までに以下の申込みフォームよりお申込みください。期日までにご連絡頂いた方にWEB会議傍聴用URLおよび会議資料を送付します。

申込みフォームURL：<https://questant.jp/q/BRUIDI8T>

※申込みフォームより取得した個人情報は適切に管理し、WEB会議傍聴用URLおよび会議資料の送付以外の用途に利用いたしません。

- 本会議資料及び議事録は、後日、国土交通省ウェブサイトに掲載予定です。
- ハイブリッドダムの取組については、以下の国土交通省ウェブサイトに掲載しています。
https://www.mlit.go.jp/river/dam/pdf/hybrid_dam_kongo.pdf

【問い合わせ先】

[メールによる問い合わせ] E-mail アドレス：hqt-hybriddam@mlit.go.jp

[電話による問い合わせ]

国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課 河川計画調整室 吉井、田住
TEL:03-5253-8111(内線35352)、03-5253-8445(直通)

気候変動に対応したダムの機能強化のあり方に関する懇談会
委員名簿

- 石田 純一 気象庁情報基盤部 数値予報課長
- 上坂 博亨 全国小水力利用推進協議会 代表理事
富山国際大学現代社会学部 教授
- 川崎 将生 国土技術政策総合研究所 河川研究部 水環境研究官
- 角 哲也 京都大学防災研究所 教授
- 松本 真由美 東京大学教養学部附属教養教育高度化機構
環境エネルギー科学特別部門 客員准教授
- 山口 直也 青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科 教授
- 山口 嘉一 (一財)ダム技術センター 理事

官民連携の新たな枠組みによるハイブリッドダム

参考

課題

水害の激甚化・頻発化 / カーボンニュートラル社会の実現 等

政策目標

治水機能の強化（国等）

- ・運用高度化による治水への有効活用
- ・放流設備の改造・嵩上げ、堆砂対策



水力発電の促進（民間）

- ・運用高度化等による増電
- ・発電施設の新設、増強



地域振興（民間・自治体）

- ・発生した電力を活用したダム立地地域の振興

【ハイブリッドダムの推進方策】

- ・最新の技術：最新の気象予測技術・ダム改造技術によるダム運用の高度化
- ・連携体制：官（国・自治体等）と民（多様な民間企業）の連携
- ・ダム容量：治水と発電が両立できる容量（ハイブリッド容量）の考え方の導入



官民連携の新たな枠組みによりハイブリッドダムを推進

ハイブリッドダムの手法

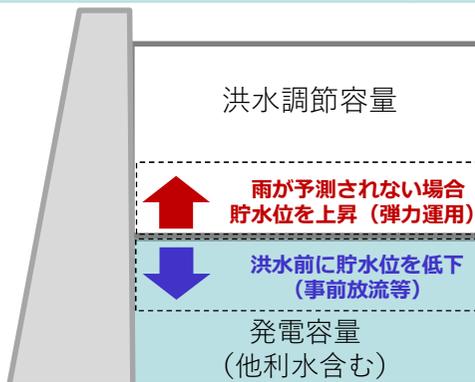
ダム運用の高度化

i .洪水後期放流の工夫

洪水後にダムの貯水位を下げる放流を行う際、当面、降雨が予測されない場合は緩やかに放流し、水力発電を実施

ii .非洪水期の弾力的運用

非洪水期にまとまった降雨が予測されるまでの間、一定の高さまで貯水位を上げ、これを安定的に放流し、水力発電を実施



- ・洪水後には、緩やかな水位低下により、ダムに貯留した水を最大限活用して増電
- ・洪水が発生しない時期には、一定の高さまで水位を上げることにより増電
- ・今後も、降雨予測の精度向上に合わせ、さらなる運用高度化を推進

令和5年度の取組
国土交通省、水資源機構管理の72ダムで試行

iii .発電施設の新設・増設

既設ダムにおいて、発電設備を新設・増設し、水力発電を実施



【発電設備のイメージ】

令和5年度の取組

国土交通省管理の3ダム（湯西川ダム、尾原ダム、野村ダム）で、事業者の公募に向け、ケーススタディを実施し、事業スキームを検討

iv .ダム改造、多目的ダム建設

堤体のかさ上げ等を行うダム改造や多目的ダムの建設に併せ、発電容量の設定などにより、水力発電を実施



【ダム改造、多目的ダム建設のイメージ】

令和5年度の取組
民間事業者等により水力発電、地域振興を実施する事業内容を検討